

技報第13号発刊にあたり



執行役員 技術本部長

千々岩 伸佐久

極東開発工業グループ技報第13号をお届けします。

極東開発工業は今年創立70周年を迎えました。その歴史の中では様々な新製品が開発されており、記録を手繰ると、冷凍車(1964/S39)、肥尿散布車(1965/S40)、タラップカー(1969/S44)、空港リフトトラック(1970/S45)、はしご車(1971/S46)、ボーリンググリーンクリーナー(1971/S46)、キャブバッククレーン(1973/S48)、移動式バッチャプラント(1974/S49)、釣りエサクラッシャー(1998/H10)・・・等々現在からは想像できないバラエティに富んだ製品ばかりで驚かされます。これらはカタログモデルにまで仕上げて発売されましたが、残念ながら価格や仕様が市場に合わなかったり市場自体が衰退したなど様々な理由で消えて行った製品になります。例えばキャンピングカーなどもこれに当たります。

極東開発工業がキャンピングカーを開発したのは1968/S43年に遡り、モータリゼーションが急速に発展し始めた当時、欧米の流行を敏感に察知して開発に着手しています。開発陣はプロトタイプカーでアメリカ大陸を横断して評価テストを行ったと言う逸話も残っていますが、残念ながら事業としては継続できず時代を先取りし過ぎた感がありました。しかしこのキャンピングカーや冒頭ご紹介した製品群はいずれもお客様のご期待に応えようと創意工夫を凝らした製品で、そしてこの開発経験は技術者を成長させ会社の技術力の根幹となって行きます。極東開発工業には目先の

損得だけに拘らずチャレンジすることを許容・奨励する社風が脈々と息づいています。今般創立70周年を迎えて過去の製品を振り返る機会に恵まれ、バラエティに富んだ製品に今と変わらぬ社風を感じながら、来たる時代に向けても新しい技術や市場に積極的にチャレンジして、お客様から「極東さんに相談したら何とかしてくれる」と頼りにして頂けるよう努めて参ります。

さて今回の特集・温故知新は長年に渡って業界のスタンダードで有り続けるために改良改善を繰り返してきたスクイーズポンプの構造の変遷を解説しています。また企画・技術解説と開発秘話ではテールゲートリフターにイノベーションをもたらしたCG型パワーゲートの開発秘話を掲載させて頂きました。お客様のご要望をより高い品質で果たすべく創意工夫を凝らした結果が大ヒットに繋がった好事例になります。いずれも興味深い内容となっていますので、どうぞご一読願います。



キャンピングカーカタログ(1968年)